

# 協働ニュース しなもん 品聞



発行:品川区・協働ネットワークしながわ

第5号は「子育て・子育て」に関する品川区の様々な協働の取り組みを紹介していきます。

【しなもん品聞に関する問い合わせ先】

品川区 地域活動課 協働・ふれあいサポート係 TEL 03-5742-6605

## チルフェス 2014 IN 品川



毎年、夏に北品川の六行会ホールで開催される『チルフェス（六行会チルドレンズフェスティバル）』は、今年で14年目を迎えます。チルフェスは、地域の子もたちに優れた芸術文化を提供し、高度で良質な舞台劇や音楽劇に触れる機会を提供する貴重な機会となっています。今年も7月に開催されるチルフェス2014 実行委員長の有馬成美さんにお話を伺いました。

今回、舞台鑑賞以外にもたくさんの方に参加していただけるよう、『きて！みて！あそぼう！』という呼びかけのもと、7月12日（土）11時～15時に、地元の区立品川学園の自治会の皆さんが、おまつり広場で『品学縁日』を開催するそうです。新たな企画の提案から当日の運営まで、自主的に取り組む生徒さんたちの活躍に期待が高まります。

また、チルフェスでは、0歳から子ども連れでオーケストラの公演が聴けるクラシックコンサートや、オーケストラの演奏の後、小さな子どもたちが本物のオーケストラの楽器に直接触れることができる楽器体験も大変人気が高いそうです。子どもと一緒に生の演奏を聴いたり、子どもが本物の楽器に触れる体験は、いつまでも家族みんなの心に残る素晴らしい夏の思い出となることでしょう。

それから、世界のさまざまなダンスを絵本のような物語で描くダンスパフォーマンスや、パントマイムと本格的なマジックが同時に味わえる演劇マジックなど、舞台劇以外にも多様な芸術と出会えるプログラムが用意されています。



さらに、いろいろな芸術を鑑賞するだけではなく、体験やワークショップなどを通じて、子どもたちが芸術を身近に感じ、強く印象に残るような工夫が、至るところに施されています。

この素晴らしい企画の運営に携わっているのは、六行会ホールを会場として提供している一般財団法人六行会、舞台芸術に関心のある地域の様々な人たち、この企画の趣旨に賛同して協力したいという有志の方々や、NPO 法人品川こども劇場など。六行会ホールの建設に携わった方もいらっしゃるそうで、一人ひとりのさまざまな知識や経験を集結させ、協力する皆さんのそれぞれの持ち味を活かしてチルフェスが創り上げられているのです。

このように、毎年、地域で子どもから大人まで幅広い人たちが楽しめるこのような大規模なイベントを開催するに当たって、たくさんの方々のさまざまな協働が行われています。

これまでには、地域の学校の生徒さんたちの部活の発表の場となったこともあり、今後も地域のさまざまな団体、学校、企業、個人が協力し合い、活躍できる場として、地域の皆さんに親しまれることでしょう。そんなチルフェスの会場に足を運んでみませんか？

開催日程 2014年7月6日（日）～7月27日（日）

開催場所 六行会ホール 東京都品川区北品川 2-32-3

問い合わせ先

住所：〒140-0001

東京都品川区北品川 2-32-3（一財）六行会内

六行会チルドレンズフェスティバル実行委員会

TEL：03-3471-3200（10:00～17:00 土・日・祝休み）

FAX：03-3471-3426

※詳しくはコチラからご覧ください

WEB：<http://chilfes.com>



2014年4月4日、品川区で長年にわたり協働やまちづくりに取り組まれた、渡辺美恵子さん(NPO 法人ふれあいの家-おばちゃんち元代表)が逝去されました。今回の「クローズアップしなもん」では、おばちゃんち現代表理事の幾島博子さん、同団体事務局長の倉田雪絵さんとともに、渡辺さんの品川区での取り組みを振り返っていきます。



渡辺美恵子さん

### —渡辺さんに共感し一緒に活動するきっかけを教えてください

幾島：渡辺さんは、おばちゃんちを立ち上げる前は中野区の児童館の館長をやっていました。お母様の介護をしながら品川の地域で新しいことを始めたいというところから、おばちゃんちの構想がうまれたのだと思います。私が渡辺さんと一緒に活動をするきっかけは、ある勉強会に参加した時、児童館の館長として渡辺さんが出してくる事例が「館長でこんなに一人の子どもや家族のことを知っている人がいるんだ」と、とても魅力を感じたことからです。大きな組織を回す力も持ちながら一人ひとりの子どもや親を大切にできる、その目線がとても素敵でした。



倉田：私は子どもの頃、風呂なしトイレと流しは共有というアパートで育ち、同じアパートに住む、血縁ではない、おばちゃんに、すごくお世話になりました。渡辺さんの、地域のなかで血縁ではない人間関係をつくって暮らしやすい世の中を、という考えに共感し、何かお手伝いをしたいという思いからより深く足を踏み入れるようになり今日に至っています。

### —協働、まちづくりで大切にしてきたことは

幾島：渡辺さんは支援する側、される側ではなくお互い様の関係を大事にしていたと思います。一方的に誰かが誰かを助けるではなく、助けてもらうこともあれば助けることもあるし、何か人の助けになること自体がその人の喜びや生きがいにもなるんだと思います。それから子育てのやり方や常識は時代と共にどんどん変わってきています。自分たちの常識を今のお母さんたちにあてはめたりせずに、考えが違うことを認め合うこと。「違うから面白い」「違うから新しい発見がある」ということを渡辺さんは、よく言っていました。

### —「懇話会」「社会貢献活動しながわ」での取り組み

倉田：品川区と協働を考える懇話会でも、してあげる、してもらう、ではない平らな関係を大事にしていました。懇話会で協働とは何ぞやと勉強しあう中で、それが「社会貢献活動しながわ」に発展していったと聞いています。出展団体を公募にすることや開催日を土曜日にするこ

となどを一般の区民の方からの意見もとりに入れられ提案し現在の形に繋がっていると思います。

### —近くで働いていてすごいなと思ったことは

幾島：文章を一晩で書き上げたり、組織図やエクセルの表などを、構想ができたらずぐに書き上げることができる、そういう行動力は本当にすごかったと思います。

倉田：やわらかくて心配性で、どこかぬけていて、フレンドリーなおばちゃんという面は、みんなが広場で見ている渡辺さんの一面。実は統計マニアと言えるほど数字を大切にしている、実績をきちんと入れて数値化し分析することなど、データに関しては厳しかったです。

### —これから私たちができること 受け継いでいきたいことは

幾島：目の前にいる一人の子どもを大事にしていかないと、みんなに良いことはできないということ。

私は微力ながら後を引き継いで代表をやることになりましたが、大きな組織を回し、全体を見ていくことと、一人の人を見ていくことは繋がっていると思います。それを大事にしていきたいのです。そしてあたたかい風の吹くまちをつくっていききたいと思います。

倉田：渡辺さんは、おばちゃんちを運営していくうえで、いろいろなところから助成金をとって、団体としてのイメージをきちんと持って活動をしてきました。私も小さな団体を立ち上げる時に、まず規約をつくることや、区の施設など登録できそうなところには、ちゃんと登録してから活動を始めることなど、組織を回すことを教えられました。一人ひとりを大事にする細やかさや丁寧さと、組織を回して団体を成立させていく大胆さ、大きな視点と小さな視点を持つこと。教えられたことはこれからもやっていかないといけないし、次の人たちにも伝えていきたいと思います。



幾島博子さん(左) 倉田雪絵さん(右)

### —ありがとうございました

※ インタビューの全文は「しながわすまいるネット」  
<http://shinagawa-smile.net/> 内の「協働ネットワークしながわ」のページから閲覧することができます。

NPO 法人ふれあいの家-おばちゃんち

140-0001 品川区北品川 2-28-19 品川宿交流館 3階  
電話・FAX 03-3471-8610 ※月～金の 10:00～16:00





平成 13 年度に、全児童放課後等対策事業のモデル事業として第二延山小学校でスタートした『すまいるスクール』。平成 18 年度には品川区の全ての小学校で実施され、今では全児童の 7 割以上が登録しています。放課後や土曜日、長期休暇に小学生の安全な居場所を提供するだけでなく、学習や遊び、スポーツを通して、児童の成長と人間関係を育むさまざまな取り組みをしています。

### 【すまいるスクール鈴ヶ森】

住所：南大井 4-16-2 電話/Fax 3763-0144

鈴ヶ森小学校は、通常の教室がある校舎から校庭を挟んで反対側にすまいるスクールを行っている建物があり、子どもたちは放課後、別棟で気持ちを切り替えて過ごすことができます。鈴ヶ森の特徴的な取り組みとして、平成 23 年度からスタートした『ぶんぶんクラブ』があります。『ぶんぶんクラブ』は、東京学芸大学との共同研究で、言葉などのゲームをみんなで楽しみながら、読み書きの基礎になる力を育てます。鈴ヶ森から始まった取り組みですが、現在は鈴ヶ森以外の 3 校でも実施されています。ただ、東京学芸大学の学生さんが講師として指導に当たっているのは鈴ヶ森だけであり、大学、学生さん、NPO 法人ふれしゃすはーと、品川区の協働で運営されています。対象は 3 年生のみで、毎週火曜日の午後 4 時からの 45 分間です。現在、3 年生 74 名中 33 名という半数近い子どもたちが登録しており、学習のプログラムであるにも関わらず、大変人気が高くなっています。その人気の秘密は、学生さんたちのアイデアによる子どもたちが楽しんで取り組めるためのさまざまな工夫です。45 分間を前半後半の 2 つのパートに分け、前半は集中タイムで個別にプリントに取り組みます。プリントの内容も穴埋めクイズや言葉探しなど、学力に関係なく子どもが遊ぶように学べる工夫がされています。後半は漢字探しゲームをチーム戦で行う形にし、全ての子どもたちが目を輝かせて積極的に取り組んでいます。課題が終わった後には、学生さんが作ったオリジナルのシールがもらえるシステムになっており、皆がそれを楽しみにしています。また、ぶんぶんクラブでは、まだ習っていない漢字を含めて行っています。これは、子どもたちが授業で出会った時に、「知っている」、「読める」ことで、学習意欲の低下を防ぎ、漢字により親しみを持たせることを狙いとしています。



### 【すまいるスクール第二延山】

住所：旗の台 1-6-1 電話/Fax 3781-1992

正門から玄関を入るとすぐ、広々とした吹き抜けのスペースが特徴的な近代的な造りの第二延山小学校。その吹き抜けの正門から向かって右側のエリアに体育館や図書室などの特別教室が備わっています。その一部がすまいるスクール専用のすまいるルームになっており、子どもたちがランドセルを置くロッカーや、さまざまな室内遊具が充実した遊びのスペースがあり、1～6 年生の子どもたちが好きな遊びを楽しんでいます。その隣のふれあいルームには工作のスペースがあり、子どもたちがお友達と語り合ったり、落ち着いて宿題に取り組めるよう、たくさんのテーブルとイスが置かれています。

また、日替わりでいろいろな教室が開かれており、お花の教室は元 PTA 役員や卒業生、キンボール教室は卒業生の保護者、野球教室は地



域の野球クラブの団体など、多くの教室が地域の方に講師になっていただいています。子どもたちが地域の方々と触れ合うことで、地域で子育てをする環境が自然に生まれています。また、5 年前から地域の NPO 法人ウーヴが業務の一部を担っており、元々は学校での読書推進活動のために絵本の読み聞かせを行っていた団体で、お話や詩を覚えて台本を見ずに語る練習をする、かたり教室などを行っています。ウーヴのスタッフの皆さんも同じ地域で生まれ育った方が多く、地元の方を積極的に雇用することで活躍の場を提供しており、皆さんが地域や子どもたちの役に立ちたいという熱い思いで活動に携わっているそうです。





児童センターは、0歳～18歳の子どもとその保護者を対象とし、幅広い年代の子どもたちが自由に利用できる地域の身近な施設です。区内には25館あり、そのうち9館は「ティーンズプラザ」として、開館時間を延長するなど中高生が活動しやすい取組みを行っています。子どもから大人まで楽しめるボルダリングウォールを備えた『ゆたか』、音楽スタジオがあり、中高生のバンド活動が活発に行われている『東中延』など、各館それぞれの特色があり設備も充実しています。また、区民、団体、企業など、さまざまな協働による活動も行われています。

今回は、子どもの預かりあい自主グループが活動する『大井倉田』と、最近、企業との協働のワークショップを実施した『平塚』でお話を伺ってきました。

【大井倉田児童センター】 住所:大井 4-11-34

電話 3776-4881 相談専用電話:3778-1263

『大井倉田』は児童センターの中で唯一、子育て相談センターとしての専用電話があり、直接あるいは電話で、たくさんの子育てに関する相談に対応しています。保育士や教員免許をもった専門相談員が保護者のお話に親身に耳を傾け、相談内容によって、保健センターや子育て支援課など、地域の適切な社会資源につなぐ役割を担っています。また地域の子育て支援に関わる9つの自主グループや団体に活動場所を提供しており、地域の子育て支援活動の活性化を後押ししています。中でも、ママと小さい子どものための預かりあい自主グループあいは2004年から10年にわたって活動しています。利用者の対象は0歳～4歳の未就園児とそのママで、多い時は20組の親子が利用していました。

現在は、毎回4組くらいの親子が、週に1～2回、午前中の2時間程度、子どもの預かり合いをしています。児童センターのスタッフの皆さんが見守り、声掛けをする環境の中で行う活動は、ママたちにとって大きな安心感につながっています。



『大井倉田』あいはい



『東中延』定期ライブ



『ゆたか』ボルダリング



『平塚』ペイント大作戦

お知らせ『品川子育てメッセ 2014』



今年で第7回を数える品川子育てメッセ。2007年に一人のお母さんの呼びかけから集まった18人の実行委員により開催され、大盛況をおさめました。第3回からは、品川子育てメッセ実行委員会・品川区・NPO法人ふれあいの家一おばちゃんちの3者による協働事業となっています。出展団体は、民間・NPO団体・行政・地元商店・企業など。今年度の出展数は60を超えました。現役子育て中の母親らの有志による「子育てメッセ実行委員会」。その若いママたちの意気に感じた多くの方々が、ご支援・ご協力を快く申し出てください。今まで開催してこられました。困ったことを行政に頼り切るのではなく、区民は区民の持てるパワーを出す。そうすることで、「自立する区民の育成」にも貢献している事業であるといえるでしょう。

今年2014年は7月4日(金)、今までのきゅりあんより場所を移し、スクエア荏原を1Fから4Fまで全室借り切ったの初開催となります。若いママたちの熱気や区民と行政、企業等の協働のパワーを感じられる「品川子育てメッセ」に、ぜひ足をお運びください。



第6回 2013年の様子



2014年説明会

日時:2014年7月4日(金)10:00～16:00

会場:スクエア荏原(荏原 4-5-28) 問い合わせ HP:<http://s-messe.com/>